

(様式第 1 号)

令和 6 年度 第 3 回芦屋市社会教育委員の会議 会議録

日 時	令和 6 年 1 0 月 2 9 日 (火) 午後 2 時 0 0 分～5 時 3 0 分
場 所	「地域共生館ふれぼの」 2 階 多目的ホール (西宮市)
出席者	委員 今西 幸蔵 委員 押谷 由夫 委員 杉山 はるみ 委員 加藤 由香 委員 鹿島 圭子 委員 井岡 祥一 委員 池内 清
欠席者	委員 井原 一久
事務局	国際文化推進室長 田嶋 修 社会教育推進課長 渡邊 一義 社会教育推進課係長 池田 聡子 社会教育推進課 岸田 珠来
会議の公表	☐ 非公開 ☒ 一部公開 ☐ 公開 会議に諮り、出席者 7 人中 7 人の賛成多数により決定した。 〈非公開・一部公開とした場合の理由〉 他市合同の協議会主催の研修会を兼ねるため、一部非公開とする。

1 会議次第

(1) 開会

(2) 研修

ア 講演会

『障害の重い人たちの地域社会参加活動から共生のまちづくりへ』

～西宮市青葉園ふれぼのの活動展開報告～

講師：西宮市社会福祉協議会 副理事長

西宮市生涯学習審議会委員 清水 明彦 氏

イ 施設見学

地域共生会館ふれぼの

(3) 令和 6 年度兵庫県社会教育研究大会分科会について

ア パワーポイント及びシナリオの確認

イ 司会進行の流れ

(4) 閉会

2 提出資料

令和6年度兵庫県社会教育研究大会分科会「芦屋市のコミュニティ・スクールについて」

3 審議内容

〈事務局：池田係長〉

【事務局説明】

〈押谷副議長〉

参加者はおおよそ何人ぐらいで、時間設定はどのようにしましょうか。参加者の皆様に課題を出し合い討議することは非常にいいことだと思います。分科会の発表に出てきた課題について意見交換をすることになると思います。参加者全員で討議するより、グループに分かれて討議する方がいいと思いますが、すぐに5分、10分と時間が過ぎてしまいます。

〈事務局：池田係長〉

参加者全員で討議をする場合、押谷副議長が参加者に質問を振っていただき、参加者にお答えいただきます。

加藤委員の発表時間が30分、全体の質問を10分～15分、グループ討議を15分、最後の発表を15分という時間設定を考えていましたが、最後の発表の15分が短いということでしたら、グループ討議を10分ぐらいにすることになり、時間設定が難しいと感じます。

〈池内委員〉

分科会の流れは、まず、討議の基本となる考え方として芦屋市の例を出します。参加者には例をきっかけに自身の考えを出していただき、最終的にまとめをするのがいいと思います。初めにコミスクの話を長々と話してしまうと、見ている人が分かりづらくなる可能性があるのです。例として全部上げるのではなく2つ3つ程度に絞っていいと思います。

また、初めのコミスクの話では、コミスクの特徴や活動内容のアピールと文部科学省が出している学校運営協議会の違いを話すといいと思います。その後、参加者にグループ討議で意見をまとめていただき、参加者全員で討議をするのがいいでしょう。全体で意見を出し合って討議するのはなかなか難しいです。人と話し合っている中で意見が出てくると思うので、グループ討議で頭の中を整理していただき、全体で意見を出し合う流れがいいと思います。時間配分は考えていく必要があります。

〈押谷副議長〉

加藤さんの発表原稿は、87,044字になっています。1分間で300字程度の早さで読んでいただくと聞きやすいです。ニュース番組は1分間に400字程度あるので少し早いです。加藤委員が試し読みをされると37分だったとのことですが、30分で話し終えら

れる可能性があります。そして、コミスクの話を半分程度にさせていただけると発表時間は25分くらいでしょうか。

私が、近畿地区社会教育研究大会に参加した際は、もう少し聞きたいと思う箇所がありました。今回の分科会の参加者も同じことがあると思います。参加者の皆さんが知っていることや既に取り組んでいることはあまり聞きたいと思わないかもしれませんが、実際に自身の市町村で取り組もうとしたとき教育委員会はどうのようにしているのだろうか、27万円の補助で取り組もうとしたときどのような取り組み方なのだろうかとか聞きたいことがあります。このような質問が出てこないときは僕が投げかけながら進めていきたいです。

全員で討論をする場合、参加者の前で自身の市町村の課題に対する解決策を聞きにくいかもしれません。各市町村の課題はグループ討議をした方が出やすいと思います。時間配分や意見交換の形式はどのようにされますか。

〈事務局：池田係長〉

おそらく、テーマは1つで最後の発表は1回になります。

グループの数や参加人数はわかりませんが、グループ討議は15分ぐらいです。

〈押谷副議長〉

基本的な質問になりますが、兵庫県社会教育研究大会分科会は、まず全体会があり、講師の方のご講演があり、そのあとの分科会は1つだけですか。それとも、複数の分科会があり、参加者が分散するのでしょうか。

また、この分科会で芦屋市の取り組みを発表しますが、そのあとにも発表はありますか。

〈事務局：池田係長〉

分科会は3つか4つあります。芦屋市以外の分科会では、芦屋市とは少し違いますが似たようなコミスクの発表があると聞いています。

〈押谷副議長〉

この分科会のテーマは何でしょうか。コミスクを知っていただくだけではないと思います。学校が地域連携したコミュニティづくりとして、学校でも様々な取り組みされていますが、今回の分科会では、社会教育の側面からどのように関わっていくことができるのかが大きな課題・テーマになると思います。本日の資料の冒頭に本分科会の趣旨も含めてと記載しているので、事務局から趣旨をご説明いただいてもいいと思っていました。基本的には、コミスクを発表するということで大体わかりますが、芦屋市の担当分で何をテーマとして語ろうとするのか、提案しようとするのかという共通の考え方の確認だけでもするといいかないと思っていました。

芦屋市は、コミスクを中心としながら地域づくりをされており、魅力的な活動を通して成果も上げてられます。今、学校を中心としてコミュニティ・スクールについて考えていこうと動きもある中で、これからのまちづくりや社会教育側からの提案のようなことができると思い非常に楽しみにしながら資料を見ていました。

〈井岡委員〉

今、国が進めようとしている学校運営協議会と芦屋市のコミスクの違いとして、芦屋市のコミスクは地域が核となりその中に学校が入っています。学校運営協議会は、学校を核として地域の方に集まっていただき、学校の課題や子ども達の育て方を考え、地域の得意分野を地域で頑張っていくコミュニティづくりをしようとしています。このように、そもそもの核が違うと思います。芦屋市と他市町の学校運営協議会の大きな違いとして、芦屋市は地域を中心として学校とお互いにコミュニケーションを取り地域づくりをしていることだと思います。提案としては、国の動きで学校運営協議会をしていきますが、地域で母体があれば、地域のそれぞれの得意分野で活動しながら核となり学校も入ることができます。地域の意見を学校の中に取り入れていながら学校も育っていく形になると思います。

〈押谷副議長〉

芦屋市ですでに取り組んでいることを発表すると他の市町村にとって非常に参考になるし新しい取り組みとして提案できると思います。芦屋市の取り組みは、これからを見越した1歩進んだ取り組みになっていると思います。

やはり、地域住民の皆さんが楽しまないといけません。子どものためにしている感じが強く出てしまうと、子ども達は監視されているように感じたり窮屈に感じたりするかもしれません。大人だけで楽しんでいけると、子ども達は学校だけではなく土曜日・日曜日も楽しんで大人姿を見ることができます。このようなことが非常に大切な気がします。今回、写真を見せていただき感じたことでした。おそらく、参加者も芦屋市のコミスクは皆が楽しんでいるということがイメージできると思います。

分科会でコミスクを紹介した後、課題と成果の発表に移ります。課題としては、役員不足や後継者不足、自治会等の協力という具体的な内容を取り上げます。そこから、グループ討議に移り、どの市町村の活動でもこのような課題が出てきますかと振り返っていただくことがいいと思います。

〈事務局：池田係長〉

地域コミュニティの課題として、自治会の協力やPTAの力が弱まってきていることを書いています。他の市町村もこのような課題があるだろうということで、テーマは地域コミュニティの課題と学校と地域の連携をどう図っていくが課題になってくるかと思います。テーマは、どちらかになると思います。どうさせていただいたらよろしいですか。

〈加藤委員〉

自治会の協力が課題と書きましたが、自治会が活発なコミスクもあるので、書き方がまずかったと思っています。書き換えたいです。

〈事務局：池田係長〉

自治会に関する細かいところは、事務局で変えていきます。

参加者は、コミュニティの課題がテーマだと話しやすいと思います。発表に時間がかかると思うので、グループの話が10分ぐらいになり、発表が15分か20分になると思います。時間配分は発表30分として、全体の質疑応答が15分ぐらいでしょうか。

〈押谷副議長〉

はい。質問がどの程度あるかわかりませんが、ない場合は私が話をつなぎます。

〈池内委員〉

井岡委員が言われたように、芦屋市のコミスクと学校運営協議会は根本的に違います。ただ、最終的には1つの方向に統一していくと思います。その最終目標を明確にしておいき、現在の問題点や最終目標に到達するためには何が問題なのか、どうすれば良くなっていくのかを話す流れになると思います。

また、芦屋市のコミスクの場合、盛んなところとそうでないところがあります。そうでないコミスクを盛んにしていくことによって、最終統合された状態に近づくと思います。活動が活発でないコミスクを盛り上げるための問題点を出していただくのがいいと思います。コミスクのような活動のない市町村では、どのように作って盛り上げていくかが問題になると思います。そのため、盛り上げ方や作る目的をはっきりとさせる必要があるでしょう。到達点を明確にすることで、いろいろな意見が出てきやすいと思います。

〈押谷副議長〉

学校運営協議会は、学校を含めた地域全体で子ども達を育てていくことがベースの考えになっています。同時に、地域住民が喜々と活動して子ども達と関わることで、結果的に地域づくりになります。目指すところは芦屋のコミスクと同じですが、まずは、学校サポートのようです。社会教育である場合、芦屋市のコミスクの概念を取り入れていただくことが非常にいいと思います。将来的には、子ども支援といってもその子どもを中心としたコミュニティづくりになります。芦屋市のコミスクに繋がっていくということにこの分科会の意義があると思います。

ただ、参加者の関心がどこにあるのかわかりません。地域づくりのような取り組みをされているのであれば関心があると思いますが、自分たちの市町村はどうしたらいいかを知り

たくて参加いただいた場合は、コミスクについて深掘りするよりも、一応理解をしていただき、意識を覚醒する形で皆さんの取り組みや関心、課題とされていることを話し合っていく流れになるかもしれません。参加者がどのようなことに関心をお持ちなのか読み取れないところがあります。

先ほど、今西議長がお帰りになる際、コメントしておきましたとおっしゃられていましたが、どのような内容でしょうか。

〈事務局：池田係長〉

パワーポイントに誤った表現があるという内容です。他にも、問題点と課題では、子ども会やPTAがなくなってきたという表現ではなく、活動が弱まっているという表現に変更した方がよいということと、問題点のボリュームが多いので、少し簡潔にして欲しいとコメントをいただきました。

〈事務局：渡邊課長〉

会議の時間が差し迫ってきましたので、時間配分については、事務局と押谷副議長、加藤委員、井岡委員で調整させていただきよろしいでしょうか。

〈押谷副議長〉

はい。

参加者がどの程度かわかると、グループ討議もしくは全体討議がいいのか等、具体的な討議のやり方やわかります。

参加者がコミスクに関心を持っていただいている方やPTAの方、社会教育関係の方でしたら、教育委員会やPTA、社会教育関係団体、校長先生、学校はどうかを詳しく聞きたいと思います。参加者が詳しく聞きたい箇所があれば、補充できるかなと思い挙げさせていただきました。委員の皆さんも感じることもあれば言っていたきたいです。あまり質問が出てこなければ、次の協議に進んだ方がいいかもわかりません。

〈事務局：渡邊課長〉

一度、事務局でもどのような質問が想定されるか考えさせてください。

〈井岡委員〉

分科会は、押谷副議長が言われたように地域コミュニティをどのように広げて強めていくかということになると思います。

南芦屋浜辺りには、浜風コミスクと潮見コミスクがありますが、潮見地域と浜風地域で自治会がたくさん地域活動をされています。シーサイドタウンができて40年以上が経っていますが、初代から自治会活動が盛んです。お祭りや餅つき大会したりコミスクと連携して

どんど焼きをしたりしています。先ほど、自治会の話をしていましたが、コミスクだけではなく自治会でも地域づくりをしていることもあるので、そこをテーマにすればコミスクの交流を参考にして自治会にどう持ち込んでいくかを話すことができると思います。スポーツ活動と文化活動に関して、自治会では難しい可能性があります、できる範囲で何かやっていこうという内容を反映していただけると、参加者の参考になると思います。

学校運営協議会では、学校を中心に皆が学校に関わり子育てをしますが、子どもが大きくなり地域で育ったときに、学校運営協議会に集まったメンバーが地域で子どもたちをどのように見ていこうという考えが広がっていけば、地域コミュニティ作りになっていきます。

〈押谷副議長〉

配布資料を見ていますと、目的のところで、学校地域家庭の連携と住民相互の連帯感や自治意識を高めて、よりよいコミュニティの創造発展を図ることが目的と書かれています。自治意識とは、コミスクだけではなく自治会の中で様々な活動をされている団体にも当てはまります。それらは別々のものではなく、コミスクの中で調整をしたり、子ども達を含めた地域皆で取り組んだりいくことが大切です。学校を会合の場などに変革し、どのように地域コミュニティの自治意識を高めて作っていくかというところが大きなテーマになるでしょう。組織を作らないとできないことがあります、厳格な組織という形にしてみると次後継者のハードルが高くなると思います。難しいです。

お伺いしたいことがあります。小学校校内地区集会所を建設と記載がありますが、各小学校の中に集会所のような場所は作られていますか。

〈事務局：渡邊課長〉

小学校の中ではありませんが、芦屋市に13個の集会所があります。当初の考えと少し変わってきて、集会所が作られたのかなと思っております。

〈事務局：田嶋室長〉

当時より集会所は増えています。地域の方から集会場が欲しいとご意見がありましたら協議して建てています。

〈押谷副議長〉

コミスク活動は、学校以外の場所も使っているんですね。

学校の中に地域の集会所のような別棟を建てて学校も使うといいと思います。鹿児島市でそのような取り組みをすると非行が大きく減ったと聞きました。

本日の清水先生のお話のように、自分も楽しんでこうという内容でお話いただけるといいのかもしれない。

〈事務局：渡邊課長〉

それでは、司会進行の流れもまた調整させていただきよろしいでしょうか。

第3回社会教育委員の会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。